

令和7年度 第3回 中能登町立中能登中学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和8年2月13日(金) 14:35~15:35
【会 場】	中能登町立中能登中学校 2F 会議室
【出席者】	大西 保、岡下 哲也、木村 実貴絵、古玉 路子、鳥木 教文 水谷内 良郎 学校長(50音順) 学校代表者:竹下 慶 教頭
【事務局】	学校教育課:山森担当課長 生涯学習課:寺西主査、中瀬主査、山口
【欠席者】	藤田 典知 学校教育課:横山主事
【次回予定】	未定

【進行】中能登中学校:竹下教頭

1. 開会あいさつ

《大西会長》

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今週に入り、新聞を見ると、水谷内校長先生が「第63回越馬徳治科学賞 功労者表彰」、弓道部指導者の加賀さんが「石川県優良部活動指導者表彰」をそれぞれ受けられた嬉しい記事が掲載されていた。子どもたちを支える先生方や地域の姿が形となって出てきており、心から喜びを感じている。これまでの生徒の様子を見て、学校がしっかり取り組んでいらっしゃるなという感想を持っている。ひとつひとつが先生方の一年間の積み重ねの成果。

今日の会が、一步でも、ひとつでも具体的な取り組みに繋がるよう、皆さんと協議していきたい。どうぞよろしく申し上げます。

2. 令和7年度学校経営報告について ~水谷内校長・竹下教頭より、資料を基に説明~

《水谷内校長あいさつ》

本校も開校して13年目に入った。生徒は概ね落ち着いて学校生活を送っている。本校の強みは、地域の方々が学校に入ってくださっているところ。部活動地域展開も、まだまだこれからという部分もあるが、近隣の中学校と比べて進んでいる。外部指導者の方が入ってくださり、楽しそうにサポートしてくださっている。授業支援の面では、家庭科の「調理実習」や「エコバッグづくり」に地域の方が指導補助に入ってくださっている。また、PTA活動として長年継続して取り組まれている「中能登しごと館」が文部科学大臣賞を受賞することができた。地域の方がどんどん学校に入ってくださり、中学生が楽しく学べる環境づくりができていると感じる。

本日はどうぞよろしく申し上げます。

①教職員アンケートについて

- 「コミュニティ・スクールとの連携は、働き方改革にもつながっている。」「もっと活用できるのではないか。」という意見も挙がっており、授業や学習面では、本校の特色である『なかのトーク』の取り組みが成果として表れているというコメントもあった。一方で、行事については、「行事の精選」を求められる中で、どう充実させていくかが今後の課題。
- 校則について、時代に沿ったものにしていけるよう、来年度に向けて見直しを検討中。生徒指導面は概ね落ち着いているが、SNSが原因となるトラブルが課題。

②保護者アンケートについて

- どの項目も80%~90%の肯定的回答が多いが、通信機器の使用時間の増加と家庭学習習慣の低下が気になるところ。このほか、校則や制服、PTA活動の負担などについて、さまざまなお意見をいただいている。

※意見等なし。

3. 協議

①コミュニティ・スクール成果報告 ～寺西主査より、資料を基に説明～

11月よりミシンや調理実習のサポートに地域の方に入っただき、細かい作業の中で、そばについて、丁寧に分かりやすく教えていただいた。

【意見等】

●全学年、家庭科で地域の方がサポートに入ってくださったということで、専門的な指導を受けることができるので、大変良い取組だと感じている。ぜひ今後も地域人材の活用を続けていただきたい。中能登しごと館について

②部活動地域展開について ～中瀬主査より、資料を基に説明～

●ソフトボール部は協会から4名の指導者を推薦いただき、土曜日に指導していただいている。今後、地域クラブ立ち上げを予定。弓道部も地域クラブを立ち上げ、令和8年度から土曜日の活動を地域クラブとして活動していく予定。

●町として、部活動地域展開の総合的なマネジメントをする受け皿として、総合型地域スポーツクラブの立ち上げを目標にしており、陸上（長距離）とバスケットボールを部活動地域展開のモデルケースとして、プレ事業の中で進めていきたいと考えている。

●いろいろな競技があるなかで、課題は、指導者不足、活動場所、練習道具、運営費、保護者負担など、人・物・お金が共通の課題。

【意見等】

●部活動地域展開を進めているが、休日に地域クラブ活動することで、部活動とは完全に切り離されているのか？

⇒平日は部活動としての活動になるため、完全に切り離されている状況ではない。休日の地域クラブ活動に兼職兼業で指導者として参加している教員もいる。

●月謝が高くて参加できない子が出てきて、諦めたり若い可能性が潰れていくのはかわいそう。活動費の援助なども検討していただきたい。

③防災教育に関する小中合同研修会について ～山森担当課長より、資料を基に説明～

総合的な学習の時間を活用して防災学習を充実させていくため、4小中学校が集まり、研修会を実施。町としては、各校の取組を共有し、小学生～中学生まで連携して学習を進め、中学校が避難所になったときに、主体的に動ける中学生に育ててほしいという想いを持っている。研修会の中では、「子どもたちに避難訓練を企画してもらってはどうか?」「地域の方の話を聞きに行ってはどうか?」など、活発な意見交換が行われた。来年度から少しでも動いていければと、プランニングを進めている。

【意見等】

●中学校としても、小中連携をより一層強め、来年度から少しずつでも動いていければと考えている。

④学校運営協議会規則の改正について ～山森担当課長より、資料を基に説明～

教職員の働き方改革というところから、いろいろな法の改正が進んでいる。国の方でも、学校と教師の業務の三分類ということで、「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」「教師が担うべき業務」という整理がされている。学校でできることはどんどん進め、教員以外でできることは分担していく、という流れ。管理職に求められる力として、「教職員のサービス管理を適切に行うことができる」「教職員の心身の健康に配慮した労務管理を行う」「学校における働き方改革を具体的に進めることができる」という内容が明記されている。今後は、校長先生が学校経営ビジョンを示す際に、働き方改革の具体策も示していただき、それを協議会の皆さんに承認していただく形になる。

⑤学校の困りごとの共有について ～竹下教頭より、資料を基に説明～

部活動地域展開の一層の推進について、教育的配慮をお願いしたい。学習時間の確保、テスト期間の配慮など、中学校として大事にしたい部分もある。また、ICTやAIの導入で便利になっている反面、教員に求められる専門性が高くなっていて、負担も増加。授業サポートについては、家庭科での補助がとても助かっている。地域人材リストの整備が進めば、さらにお願ひしやすくなる。このほか、支援員の増員、朝の挨拶や登校指導、放課後学習補助、長期休業中の環境整備など、人手に関する課題が多い。コミュニティ・スクールを通して、お力を貸していただければありがたい。

【意見等】

- 先生方の負担は、とても大きい。部活動地域展開については、休み返上で対応されている先生もいらっしゃる。子どもの人数や指導者が減っている昨今、部活動も縮小できるものは縮小してもいいのではないか。
- 苦情対応について、先生方に直接届けるべき声が届かなくなるのもどうかと思うが、学校外にコールセンターのような仕組みがあってもいいのではないか。
- 部活動地域展開では、一般の方と一緒に活動している生徒もいる。地域全体で育ててもらっている。
- 部活動地域展開についての教育的配慮については、教えてもらわないと分からない部分、見えない部分もある。地域の指導者が増えれば増えるほど、学校の方針を伝える場を設け、お示ししてほしい。
- 現在は授業サポーターの方・外部指導者の方と、とても良い関係性ができているのではないか。地域のみなさん、とても楽しそうに関わってくださっている。これからも経験を積み重ねながら関係各所と連携して進めていきたい。